

みなさんこんにちは、認知症看護認定看護師の持田結香です。認知症をもつ患者さんが、住み慣れた環境から入院されたことで抱く不安を、少しでも軽減できるよう活動しています。今回はみなさんに役に立つ情報「認知症ケアパス」についてお伝えします。

認知症看護認定看護師：持田結香（PHS：3934）



日本の平均寿命は女性が87.74歳、男性が81.64歳（2020年）、それぞれ9年連続で延びているそうです。うれしい反面、高齢になるほど認知症になるかもしれないという心配が増えます。最近では認知症と診断された時のために備えた生命保険のコマーシャルがテレビで流れ、認知症への意識の高まりやその時に備えたいというニーズがあることがわかります。では私たちは自分や家族、身近な方が認知症になったときどうしたらよいでしょうか？そんな時、たよりになるのが「認知症ケアパス」です。

認知症ケアパスとは「認知症の人の状態に応じた適切なサービス提供の流れ」をまとめたものです。認知症の人やその家族が「いつ」「どこで」「どのような」医療や介護サービスが受けられるのか、認知症の様態に応じたサービス提供の流れを地域ごとにまとめた「認知症ケアパス」を各市町村で作成しています。（厚生省認知症施策より）

富士市の認知症ケアパス～認知症の症状とケアの流れ～は、『認知症の人と家族のみちしるべ』というパンフレット（富士市役所高齢者支援課、富士市の地域包括支援センターで配付）のなかにあり、インターネットでも見ることができます。（<https://www.city.fuji.shizuoka.jp/kenkou/c0505/fmervo00000113ch.html>）パンフレットには、「認知症かな？」と思ったらチェックしてみるページもあります。

11. 認知症ケアパス ～認知症の症状とケアの流れ～

認知症は少しずつ進行し、症状が変化していきます。家族や周囲が認知症を理解して、上手に本人に対応していくことが大切です。（搬送医問や身体状況によって経過が異なり、全ての方に当てはまるものではありませんが、今後の介護や対応の目安としてみてください。）

認知症の進行に応じた変化	健康 → あれ？もの忘れかな → そろそろ誰かの見守りが必要 → 日常生活に手助けが必要 → 常に手助けが必要
<p>本人の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ● なんとなくおかしいと感じて不安になる（前）家に慣れがつかない ● 片付けが苦手になる ● 物が無くなる ● 物が出がなくなると 	<ul style="list-style-type: none"> ● 小銭で払うのが苦手になる ● 探しものをする時間が増える ● 食事の支障が一人では難しい ● 火の消し忘れ ● 金銭の管理や支払いが難しくなる
<p>家族の気持ちと対応</p> <p>認知症は家族のかわり方や環境調整により、症状は大きく変化し、気持ちの変化は人それぞれです。</p> <p>家族会や勉強会に参加すると、色々な情報が得られます。</p>	<p>悩みを打ち明けられないで一人で悩んでしまいがち。</p> <p>→ 抱え込まず相談をすることが大事。家族の病気の理解と対応が、今後の症状の仕方大きく影響する。</p>
<p>本人やまわりの人がやってほしいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 認知症予防に努めましょう。 ■ 友人や地域とのつながりを大切にしましょう。 ■ 今までやってきたことを続けましょう。 ■ 地域の活動 ■ サークル ■ ボランティア 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ まわりの人に相談してみましょう。 ■ 一日の計画を立てて行動してみましょう。 ■ 富士市の地域包括支援センター（寄米参席）に相談しましょう。 ■ かかりつけ医に相談しましょう。 ■ 元気なうちからエンディングノートを書いたり、家族と今後の過ごし方について話し合ってみましょう。 ■ 外出の機会をもちましょう。 ■ 本人の話をじっくり聞きましょう。
<p>介護保険</p> <p>申請の相談</p>	<p>介護認定の取得</p>
<p>認知症の人や家族を支援する体制</p> <p>予 師</p> <p>医師</p> <p>相談</p> <p>介護</p> <p>生活支援</p> <p>家族支援</p> <p>住まい</p>	<p>介護サービスの利用</p> <p>家族の介護職員の軽減</p>

患者さんや家族、身近な方が困っているとき、ケアパスがあることをまず思い出してください。